



實性

令和四年 第四号 秋彼岸発行

秋のお彼岸ご案内

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、今年の夏は、コロナウイルスと共に暑さは厳しいものでした。朝夕少しは涼しさを感じられるようになったこの季節、秋のお彼岸を迎えます。

秋のお彼岸は、秋分の日（九月二十三日 金曜日）をお中日にした一週間をいいます。

そもそも彼岸とは、迷いを離れた悟りの世界を「彼岸」とよび、反対に、私共が住む迷いの多い世界を「此岸しがん」と呼びます。私達は、常日頃、生活に追われた多忙な日々を送っております。そんな私達は、なかなか自分自身を見つめることは容易ではありません。そこで、せめて春と秋の一週間、己を見つめる修行の期間が「彼岸」です。

今自分たちがあるのは、父母の慈しみ育ててくださったお陰、そしてご先祖様に守られていたこそと、感謝の念のもと、お墓参りをしたいものです。

お釈迦様は、「彼岸」をめざすために六つの行いをされました。

た。これを「六波羅蜜ろくはらみつ」といいます。

「六波羅蜜」とは、

- 「布施」(ふせ)……………人に者を施すこと
- 「持戒」(じかい)……………仏教の戒律を守ること
- 「忍辱」(にんにく)……………苦難に耐え忍ぶこと
- 「精進」(しょうじん)……………仏道修行に励むこと
- 「禅定」(ぜんじょう)……………心を静めて集中すること
- 「智慧」(ちえ)……………真理を明らかにすること

以上の六つを実践することを教えられました。

ご先祖様へのご回向、ご両親への感謝、そして、ご自身の極楽浄土への願いのためにも、彼岸会にご家族お揃いでご参加ください。

彼岸会法要

お中日

● 九月二十三日(祝・金) 午前十一時より

● お彼岸入り 九月二十日(火)

● お彼岸中日 九月二十三日(金)

● お彼岸明け 九月二十六日(月)

※お彼岸のお塔婆はお早めにお申し込みください。

※新型コロナウイルス感染状況により変更となりますことご了承ください。

本年も、七月、八月両月、盂蘭盆会法要が、新型コロナウイルス禍にもかかわらず、大勢の方々にご参加いただきました。法要に際し、お盆のお話をさせていただきました。

二つの「お盆」について

◆一つ目の「お盆」は、七月・八月ご先祖様を供養し、お迎えする夏の行事

◆二つ目の「お盆」は、ご家庭で、お茶碗をのせたり食事を運んだりする物

この二つの「お盆」は、同じ事柄から発生しています。「盂蘭盆会」というお経の中に、お釈迦様の高弟・目連尊者という方がおられ、修行を積まれた人間では見ることの出来ない世界まで見通せるようになりました。ある時、尊者がすでに亡くなった母上が、あの世でどのようなようにしておられるかと思ひ、極楽の世界を見てみました。当然のごとく、お浄土で過ごしているとしましたが、お母様は、極楽の世界にはおられず、餓鬼道で苦しんでおられました。目連尊者は驚いて、何故餓鬼道で苦しんでおられるのかをお釈迦様におたずねになりました。お釈迦様が申されるに「お母さんは決して悪い人ではないが、自分の子供のことばかり考え、他の子供には目もくれないため、地獄に落ちている」ということでした。尊

者はどうすれば母を救えるかを尋ねられました。お釈迦様が申されるには、「今、修行僧達が『夏安居』の修行を行っていて、この七月十五日に修行が終わり、修行で痩せ細った僧達にお供物を捧げて布施をなささい。そうすれば、母君の苦しみも、おのずからほどけるだろう」とおっしゃいました。尊者は、これをよく行い、これにより母上が、そして又、餓鬼道に落ちた共がらが救われました。人々も、この施餓鬼会参集して輪になって踊り、喜びました。このことが「お盆」の由来です。そしてもう一つの「お盆」が輪になって踊った丸い輪を「お盆」とみなしたということです、とつても興味的なお話です。この輪になって人々が喜び踊ったのが盆踊りの始まりです。樽を組み、輪になってご先祖の御霊を供養するための踊りです。きちんと精霊棚を作って、盆踊りを行っている所もあるようです。



盂蘭盆会



法然上人
浄土宗
開宗850年
お念佛からはじまる幸せ
令和6年

浄土宗の宗祖・法然上人は、一一七五年（承安五年）に浄土宗を開かれました。二〇二四年（令和六年）に、浄土宗は開宗八五〇年を迎えます。

法然上人は、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えることにより、すべての人が平等に阿弥陀さまに救われていく道を説かれました。

浄土宗を開かれた理念について、法然上人は次ぎのように仰っています。「私が浄土宗を立て意趣（いしゅ）考えは、凡夫（ぼんぷ）仏教の道理を理解していない者が阿弥陀仏の報土（ほうど）西片極楽浄土）に往生できることを示すためである。」

欲求が満たされることも「幸せ」の一面ですが、欲求が満たされることだけが「幸せ」では有りません。「仏法僧の三宝」の明るく、正しく、なかよく「生きる生活の中に、「幸せ」の本質があると考えます。

「お念佛からはじまる幸せ」とは、お念仏を称えることにより、自分自身が生かされていることに気づかされる。そして、お念仏を称えることが阿弥陀さまに見守られ、救われていく安心につながり、お念仏の信仰を深めていくことです。

総代・鴨下一郎氏 叙勲

総代・鴨下一郎様は、国会議員として長年社会保障制度の構築にご尽力された功績により、令和四年春の叙勲にて、旭日大綬章を受章されました。

實性寺の彼岸花



お彼岸の頃、開花するので彼岸花と呼ばれています。またマンジュシャゲ（曼珠沙華）とも呼ばれ梵語「赤い花・天上の花」の意味で、おめでたい兆しとされています。

お線香

お線香は香りのごちそうです。

心を清め、身体を清め、物を清め、真心をお供えることにあります。仏様のみ教えの香り、静けさの香りでもあり、また、仏様の食べ物ともいわれています。この香りは、香木ですが、長く香るようにと、お線香が作られました。お線香を供えるには、なるべく香りの良い物を差し上げてください。一本でもあ
るいは半分でも十分です。

ご持参のお線香をご自身で火を付けるのは、大変危険です。また、汚れの原因ともなります。玄関でお付け致しますので、どうぞお申し付けください。もちろん無料ですので、ご遠慮は無用です。

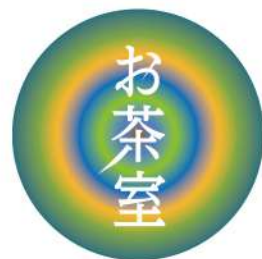
お寺は、お線香を売る商売ではございませんので、檀信徒各位の便宜上お寺に用意してあるものです。



茶室路地を借景にした書院での飾り



客殿床の間飾り



花入唐銅釣り舟



Jisyoji
Tea ceremony
Classroom





境内の花

Flowers in the precincts



駐車場

当寺には山門右横の五く六台の駐車場しかございません。

ご法事・お寺の行事（修正会・彼岸会・お施餓鬼・お盆等）には、とても不十分です。今までは、お檀家様の駐車場をその都度お借りしておりましたが、空きが無くなり、ご用意することができません。

大変ご迷惑をお掛け致しますが、お寺の周りの、コインパーキングをご利用頂くしかありません。その点は何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

開門・閉門時間

冬時間にもない開門・閉門時間を変更させていただきます。

十一月～二月まで

● 開門 午前七時

● 閉門 午後四時

ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

★ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くても十日前迄にお申し込みください。お電話よりファックスの方が正確ですのでご利用ください。

ファックス番号 03(3883)3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出ください。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七ー十八
電話 03(3883)8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>

